

2993-1/2

「地輪」カーブス 98[°]
2998[°]

2987-1/2

273[°] 紀上 274[°] 195[°] 2997[°] 134[°] 195[°]
続紀(6) 6-45[°] カーブス 地輪 98[°] 71[°] 2258[°] 773[°] 204[°] 98[°]

「起源」カーブス
地輪 98[°]

第五十二章 埴輪

埴輪の起源

古事記に、崇神天皇条の冒頭に、倭日子命。この王の時に、始めて陵に人垣を立てき

とある。(荒筋) 第一編 古墳の変遷につ

いて、第八章へ殉死、第三十五章へ殉葬

する者、奴婢百餘人の項等において既述、
二、そして下、日本書紀に、垂仁天皇の三十二年

条や、日続日本紀に、桓武天皇の天応元年(七
ハ一)六月条などの記述によると、

「野見宿禰」は、埴で人・馬・友・ひ・種種の物の
形を造って天皇に献上した。これより後、是

の土物を以って殉死者の身代りとなし、墳丘
上に樹て並べるようになった。

という。長期にわたリ
堅く信じられ、一般の人々の間に定着して

いた。ところで、この日埴輪の殉死代用説は、
ところが最近、考古学上の研究成果によつ

て、人物や動物の埴輪は、埴輪の中で最も古

2.987-3/2

こと

い段階に出現するものでなく、また、殉死代
行用の機能をもつものでないことが明らか
になった。
という。(「埴輪」伊達宗泰、保育社、九九
頁参照)
■とすれば、
埴輪は、一体、口何の爲に墳丘上に樹て
並べられるようになったのだろうか。
そして、そもそも埴輪の起源は口何に
と不審に感じられる。
*
この疑問を念頭に置きながら、
先ず予め、埴輪の発達の経緯についで簡
単にみてみよう。
■近畿地方の古墳のうち、最古のもの一つ
と考えられ、多数の三角縁神獣鏡が副葬されてた
こと、で著名な椿井大塚山古墳(京都府相楽郡
山城町椿井)に埴輪に類するものは無く
僅かな土器片が出土した、と伝えられてい
る。

桜井茶臼山古墳の石槨・木棺は水鏡朱でまっか。95頁に記す。
 版由195-3 ④ 2995-1/2 ④ 2992
 新(1)-169 ④ 2995-2/3 ④ 2992
 新(1)-169 ④ 2995-2/3 ④ 2992
 新(1)-169 ④ 2995-2/3 ④ 2992

たい 元1336 日本100区98
 大12 ちほに 同記 1577

また、この椿井大塚山古墳と、同範の鏡を
 持ち、古墳築造の時代もさほどへだたらない
 とされる兵庫県播磨吉島古墳や、岡山県備前
 車塚古墳などにも、埴輪らしいものは認めら
 れていない。(「歴史読本」はにわの謎と古
 代人、新人物往来社、昭和五十一年九月号、
 六九頁参照)
 すなわち、
 中国地方や近畿地方で高塚式古墳を築
 くようになった頃には、未だ
 埴輪を墳丘上に樹て並べる
 という風習が存在しなかつた。
 と考えられる。
 ところが、埴輪をおもわせるものが
 出現する。
 奈良県桜井市茶臼山古墳の後円部につくら
 れた竪穴式石室の上面には、石室を囲んで方
 形状に、底部に孔をあけた壺形の土器が
 置かれていて、これが埴輪の祖形ではないか
 という。(「埴輪」伊達宗泰、保育社、一〇六
 頁。「歴史読本」新人物往来社、昭和五十
 一年九月号、六九頁参照。第四十三章「蛇と三輪山」の
 項において既述) 荒筋 第二編「埴輪」

・カラー

・右頭の上半分に、履歴一杯はみ出させて掘裁下さい。
・古墳上の森が思っ、ぽくなるといふに、明るくして下さい。



2,988^P-3/13

459



1309

古墳 森浩一

写真図版 543

桜井茶臼山古墳

1409

保良社 昭和45年12月1日発行

13頁参照

奈良県桜井市外山

手持ちの小さい本

古墳のまわりには、塚があったのだろう。

大堰(堰といふ)

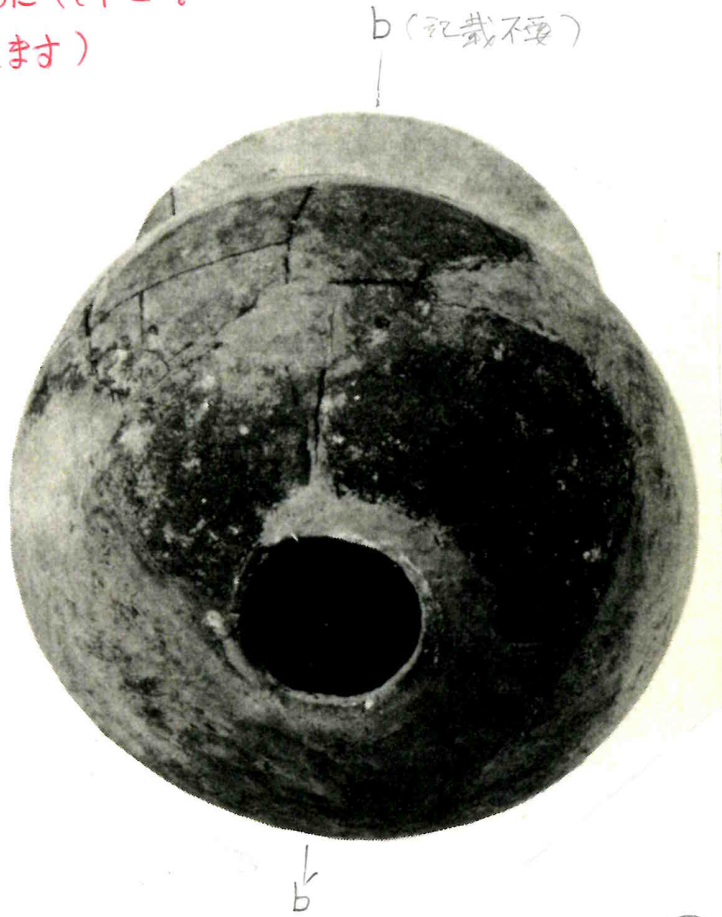
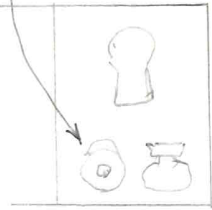
手持ちの小さい本

2990-2/84

2,988^p-3/13

- ・ a-a', b-b' が、平行となるように配置して下さい。
- ・ 暗くならないようにして下さい。
- (明るくお願いします)

右頁の下方に、
写真2葉を
並らべて
配置下さい。



中心の穴 14QG
13QG

写真図版 545 桜井茶臼山古墳出土壺形土器の底部

『埴輪』伊達宗泰、保育社、昭和53年3月5日発行、14頁参照。(写真図版2葉共)

12QG
4
・ 底部穿孔土器であることが分かる。

・ 底が無い点は、円筒埴輪と同様である。

a (記載不要)



14QG

写真図版 544 桜井茶臼山古墳出土の壺形土器 4世紀

せいぎ
*『埴輪の世紀』
高橋克壽、150頁に
和歌山・大坂の
底部穿孔土器写真
有る。

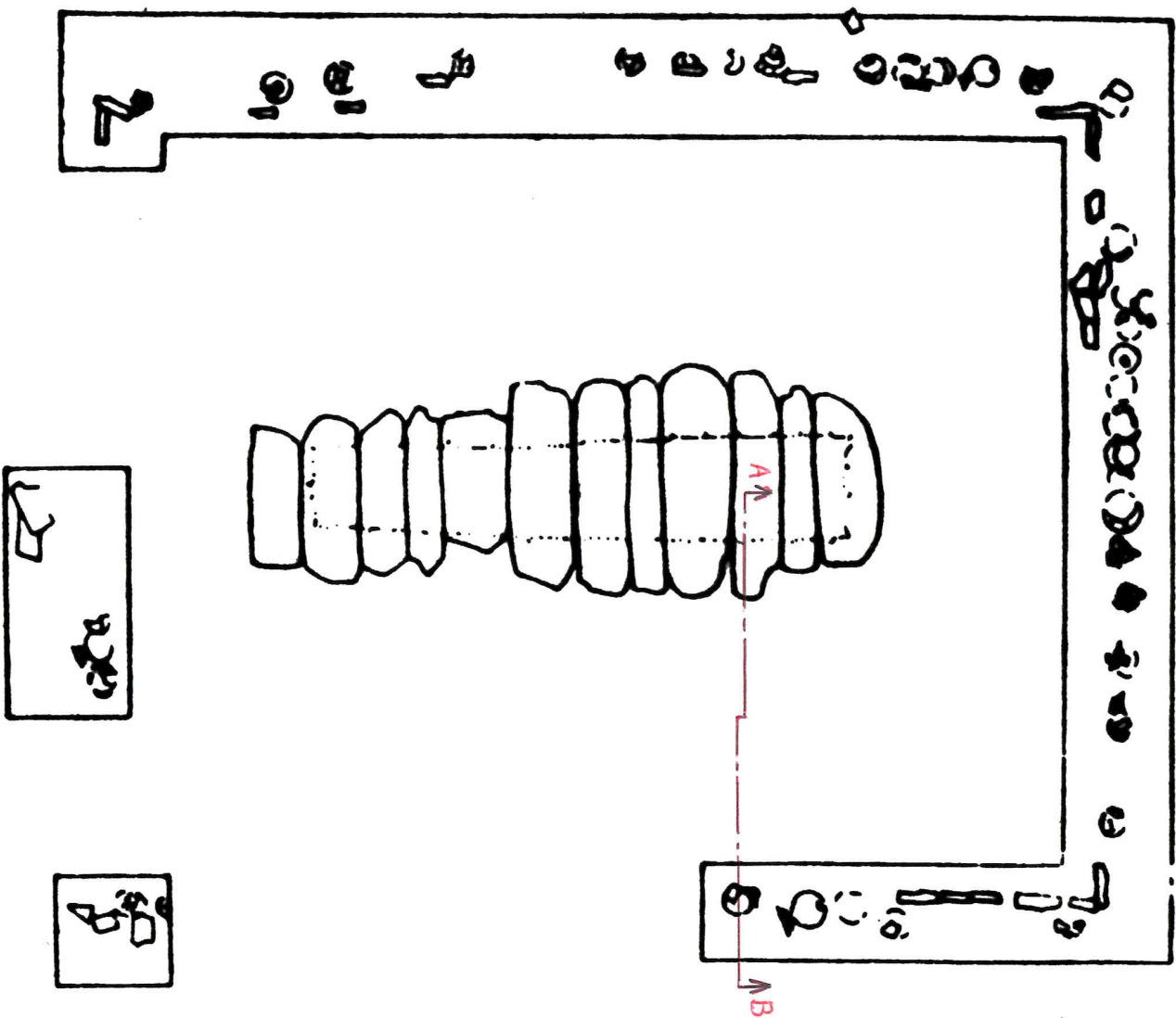
半字アケル

460

写真図版 2つ

・左頁の上半分に、
 限度一杯上へはみ出させて
 掲載下さい。

2,988^P-4/13



北
 461

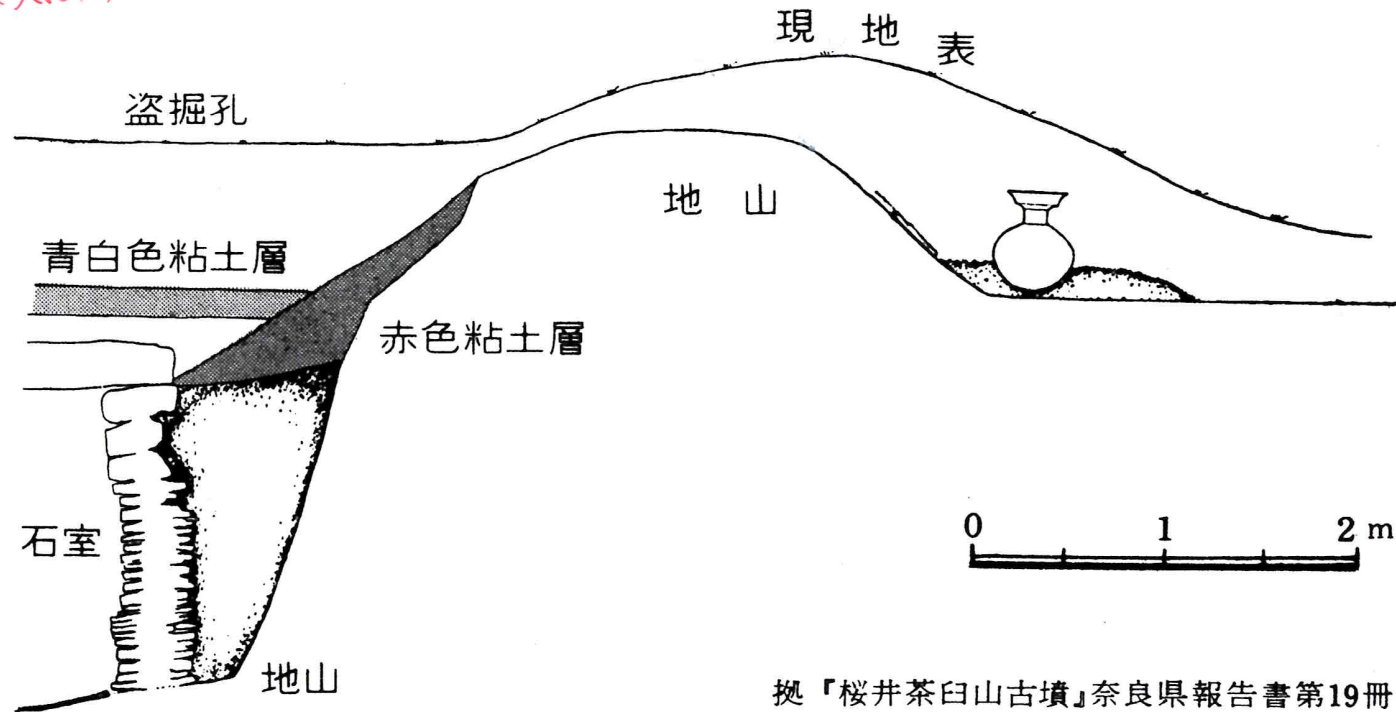
1304

桜井茶臼山古墳の平面図

・ 左頁の下半分に、
 限度一杯左右にはみ出させて
 掲載下さい。

2,988^P-5/13

・ 文字も、皆、もう少し太めの
 ゴ¹4に変えて
 下さい。



拠「桜井茶臼山古墳」奈良県報告書第19冊

中心よりわけ
 13QG

中心よりわけ
 14QG

13QG — A-B 断面図

第401図 桜井茶臼山古墳

『土埴輪』伊達宗泰、保育社、昭和53年3月5日発行、15頁参照。

- ・カラー
- ・右頁全面に、大土で掲載下さい。

上



・上下を間違え
ないで下さい。

2,988⁷-6/13

「古墳=秘め
られた文化」
「謎」94頁に
貼布

(第8巻) 463-1/3

中いりかけ
1309

中いりかけ
1409

写真図版 546 桜井茶臼山古墳の石室 (堅穴式石室) (世に) 朝日令和元年(2019)9/10 9/10

『朝日新聞』平成21年10月23日付 <「大王」朱の眠り> (10) (秘) 貴重資料全面200回 > 参照。

・阿蘇の『丹』(ベンガラ)が、密かに持ち込まれ、大己貴(多分、草薙 剣を献上して天上の国の属国となることを誓った天之葦原)の墓を荘厳に彩ったのだらう、と想像される。(第3巻、267頁参照。要検討)

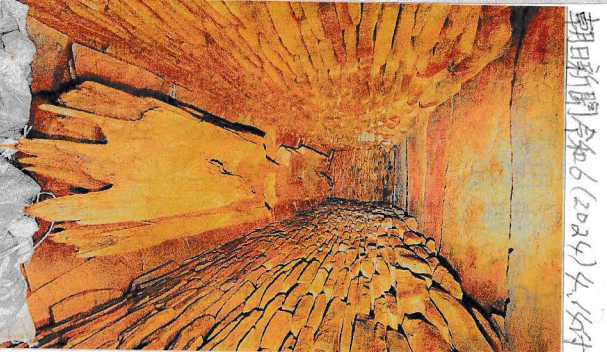
銅鏡副葬最多100面超



奈良県桜井市の大型前
方後円墳、桜井春日古
墳（3世紀末ごろ、国史
跡、墳丘長204m）
に、国内最多の100面
を超える銅鏡が副葬され
ていたことがわかった。
奈良県立橿原考古学研究
所（橿考古研）が7日発表し
た。「卑弥呼の鏡」とも
呼ばれる三角縁神獣鏡な
ど多彩な種類の鏡が確認
され、専門家は「被葬者
に突出した力があったこ
とを示す」と評価する。

大和政権初期の王墓と

→ 鏡の主要部(中央部)が見あたらないようだ。



の見方がある同古墳からは、過去の調査などで銅鏡の破片3・8点が見つかっている。樞考研は2010年、それまで全国最多だった平原遺跡1号墓(福岡県糸島市)の40面を上回る、81面の銅鏡があつたとの分析結果を発表した。ただ、当時は種類不明の破片もあつたため、研究者らのチームが改めて調査。三次元計測のでは「と話す。今回の研究成果は、10月8日に有楽町日ホール(東京)で発表される。問い含めれば樞考研は、過去にわたって、つたといふられるという。」(0744・24・1110) 一へ。(清水謙司/井野夢)

【假説】

- 第3表が概略正しいとするなら、3世紀末は卑弥呼死去(248?)後のだいたい西暦300年頃である。
- 3世紀末当時、大型の銅鐸文化圏内にある奈良盆地一帯は、(素戔嗚の子孫)大己貴が領有する「当初の出雲国」だったと解される。
- 331年直後当時、「当初の出雲国」が西の倭国の属国になったとすれば、—— その時以降、三角縁神獸鏡等が、倭国の朝廷から大己貴へ下賜されたのかも知れない。
- 大己貴の住居内に置かれていた多くの鏡が、忌部の部からによって、粉々に打ち砕かれたのではなからうか。(福岡県の平原遺跡参照)
- 大己貴死去後、茶臼山古墳の堅穴内に、三角縁神獸鏡等の破片が副葬されたものと思われる。
- その後、倭国の朝廷が出雲国に国譲りを迫ったので、大己貴らは現在の出雲国に移り住んだのだろう。

盾形銅鏡・237cm、地鉄剣
(第7巻) 474-2/3~3/3

(第8巻) 463-3/3

200

朝日新聞(2021)
令和5年(2023)
11月29日

100面超の鏡 浮かぶ隔絶した王権の存在

まことに、ふたつおりの量と質

1。奈良県桜井市の桜井茶臼山古墳

山古墳(墳丘長204m、前方

後古墳)で副葬が判明した、少

なくとも103面にのぼる古鏡

群を、調査に携わった研究者ら

はそう評する。持ち主はいった

いどんな人物だったのか。見え

てきたのは古墳時代前期に君臨

する、隔絶した権力の存在だ。

同古墳は大和王権発祥の地、

奈良盆地の南東部にある。昭和

20年代に調査され、泉立権原考

古学研究所(権原研)による2

009年の再発掘で300を超

える鏡片が回収された。

ただし、いずれも粉々で、小指の

先ほどの破片も。当初は81面以

上と発表されたが、権原研では

このほど科学研究費の助成を利

用し、精密な3次元計測など同

定作業を改めて実施。その結

果、103面以上のほること

がわかったのだ。

種類も多彩で、画文帯神獸鏡

奈良・桜井茶臼山古墳



奈良 茶臼山古墳の銅鏡破片二
良 桜井県立権原考古学研究所提供

きく変わっている。

した可能性はないのか。

調査を通して、鏡には布の痕

跡がにびりついていることもわ

かった。森下さんは「おどもど

か。最初から破片ばかりを副葬

したというのも無理がある。

石室内は鎌倉時代以来、複数

回荒らされているらしい。なら

たとしても桜井茶臼山築造段階

には終息していた、とみる。一

方、今尾文昭・関西大非常勤講

師は「破砕層谷とのかかわりを

議論する余地はまだ残されてい

るのではないか」。

古鏡に詳しい九州大の辻田淳

一郎准教授は、同時期の比較資

料を待ちたいとしたうえで、

「桜井茶臼山が奈良盆地周辺で

突出しているのは明らか。た

だ、そのあの方が列島各地の社

会における政治的支配を示すか

どうかは別問題で、さなる検

討が必要だ」と話す。

(編集委員・中村俊介)

つたとなると、古墳時代後も大

手権者研学芸(トバイザイ)があ

る。10月、東

した王陵クラス」(岡林孝作・

だが、「質的な差をもって突出

実態では、どの考えは根強い。

とめるやかに連携していたのが

まだ脆弱で、むしろ各地の豪族

いだけに、初期大和政権の力は

古墳時代の暮開けから間もな

王権」(森下さん)だ。

できた人物、卓越した力を持つ

道具として配布をコントロール

「鏡の生産にかかわり、政治の

ここから浮かびあがるのは

中国鏡56

や内行花文鏡といった中国鏡56

面、三角縁神獸鏡26面、鳳龍鏡

などの倭鏡21面という豪華で。

36面以上の権井大塚山古墳(京

都府大津川市)や三角縁神獸鏡

33面を出土した黒塚古墳(奈良

県天理市)など著名な大量埋葬

例と比べても破格である。

「数、種類、質、どれをとっ

てもすごい。精製品や大型品を

選んでおり、ほかに例がない。

飛び抜けた存在だ」。10月、東

京での講演会で森下章司・大手

前大教授は、そう語った。

・カラー

・左頁上半分に、
上、右、左を
限度一杯はみ出させ、
大きく掲載下さい。

・暗くならないようにして
下さい。

・明るくお願いします。

2,988^P - 7/13



新ヤ(1)-170^P
昭和53年12月

中心よりわけ
130G

中心よりわけ
140G

120G 上げろ いま いかまか 半アケル
右め 奈良県生駒郡斑鳩町 瓦塚古墳

— 2992^P 35

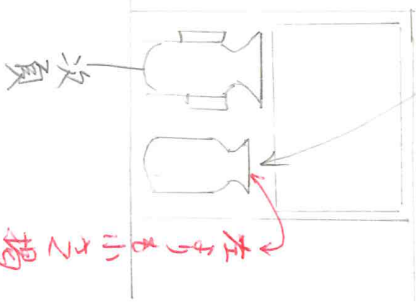
写真版547 壺形埴輪および円筒形埴輪出土状況

『埴輪』伊達宗泰 保育社 昭和53年3月5日発行 25頁参照

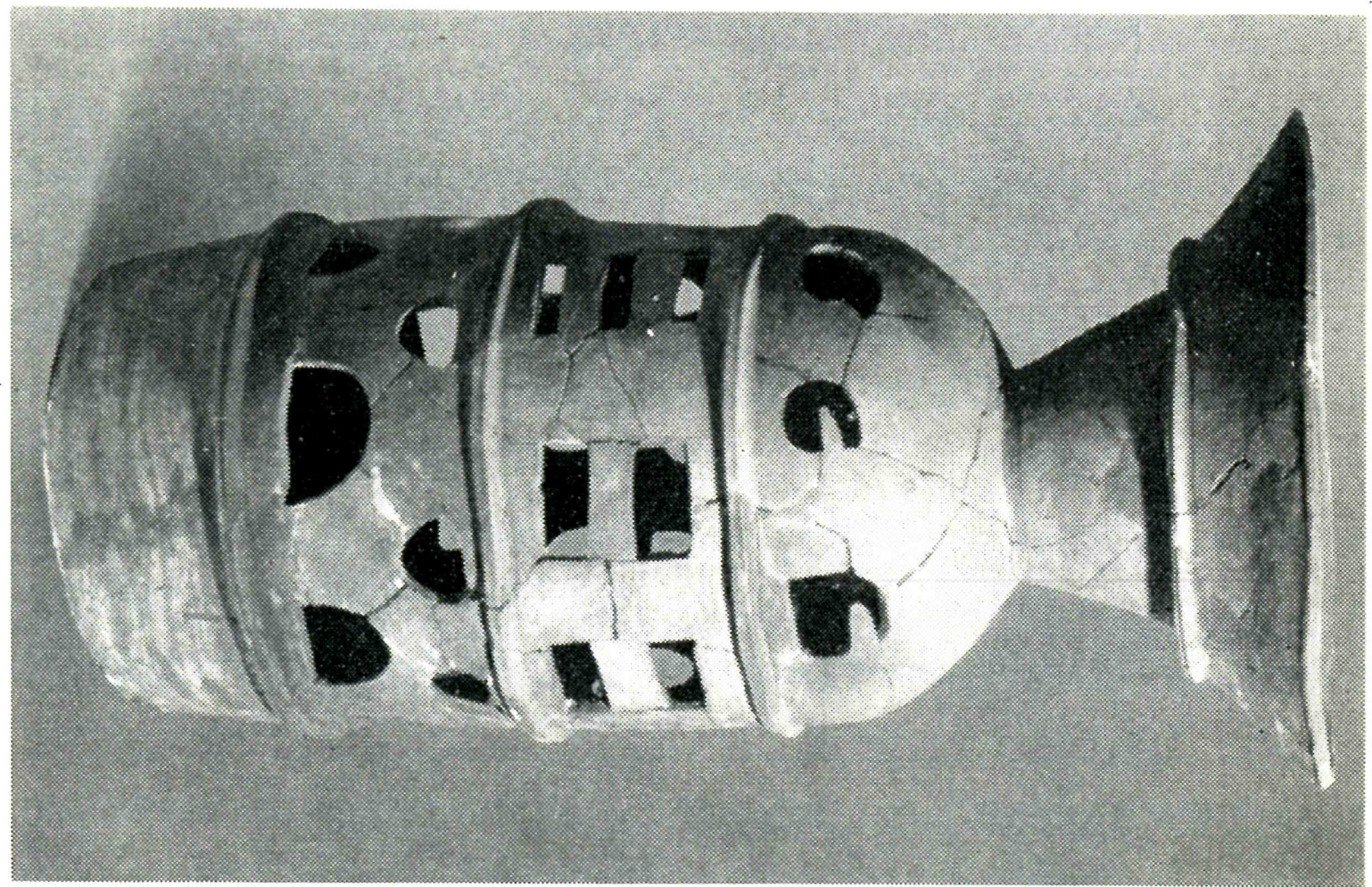
・円筒形埴輪を一直線状に並べて配置する場合が多い。支柱に取り付ける横木を、肩に掛け渡す為だろうか。

464^P

左頁の右下(1/4)
に大々載せて
下さい。



2,988^p-8/13



中心のツボ
130g

140g

写真図版548 朝顔形埴輪

120g

奈良県天理市布留出土 天理参考館
4世紀 高さ83.5cm

右側

埴輪 小林行雄 平凡社 昭和49年8月5日発行 124頁参照

球状のものを乗せると コケシに似る

・カラー

・左頁の左下(1/4)
に大きく載せ
下さい。

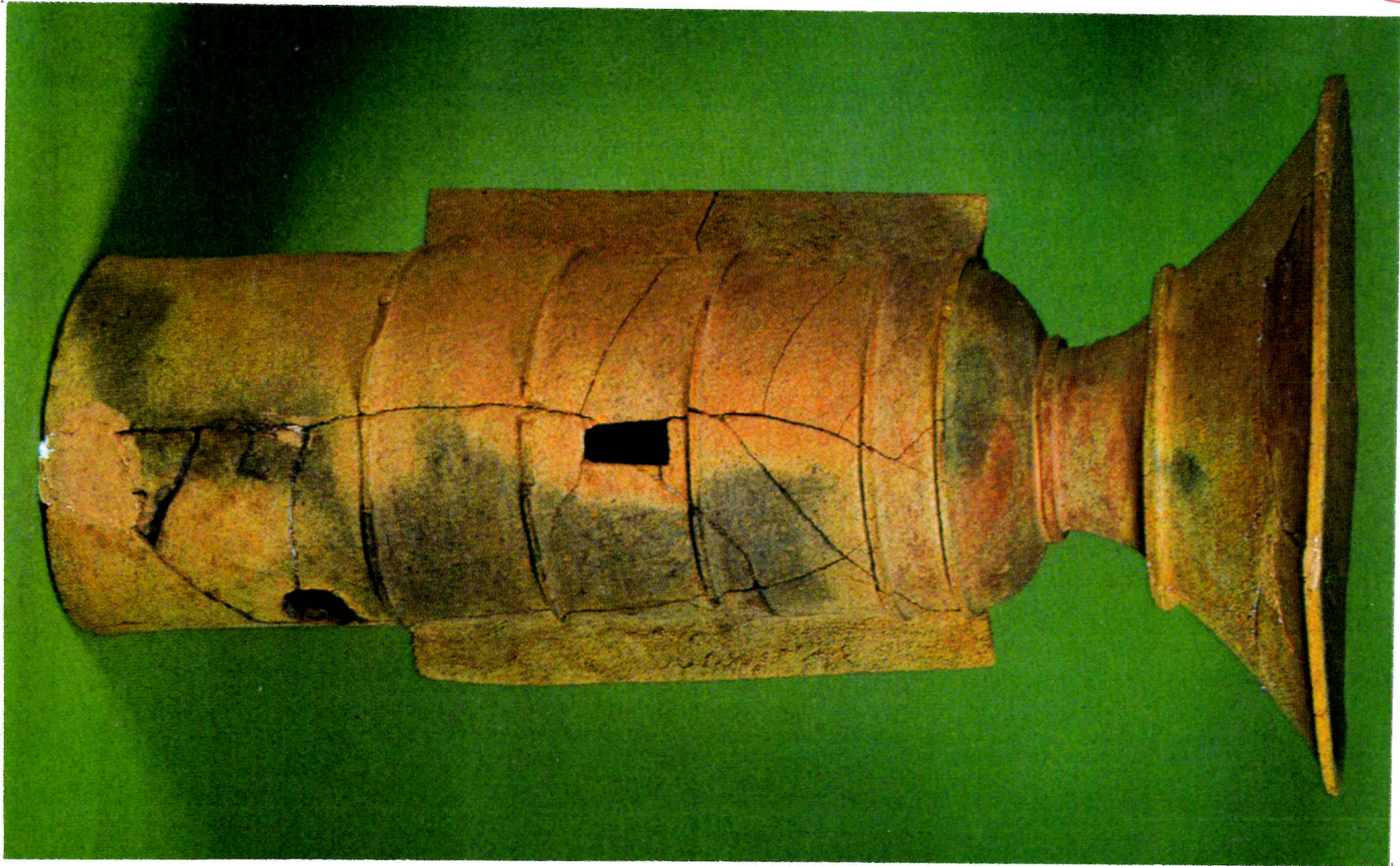
2,988^P 9/13

1120G

・上に丸いものを
乗せたら、人の形
に見える。

中世3.9.144
130G

1140G



466

右ページ

『土壇輪』伊達宗泰
朝顔形土壇輪
奈良県奈良市佐紀町、マエ塚古墳
4世紀 高さ103cm
昭和53年3月5日発行 28頁参照
保育社

・カラー
 ・右頁の上。
 ・上下左右を、限定一杯はみだして
 掲載下さい。



2,988² 10/13

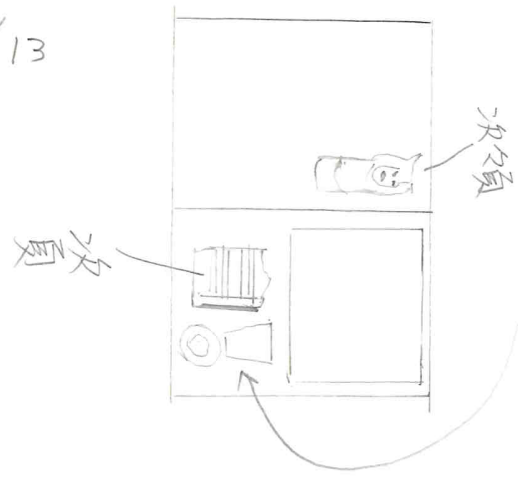
467

12aG 12aG 12aG
 上上げ 奈良県桜井市高田、4世紀

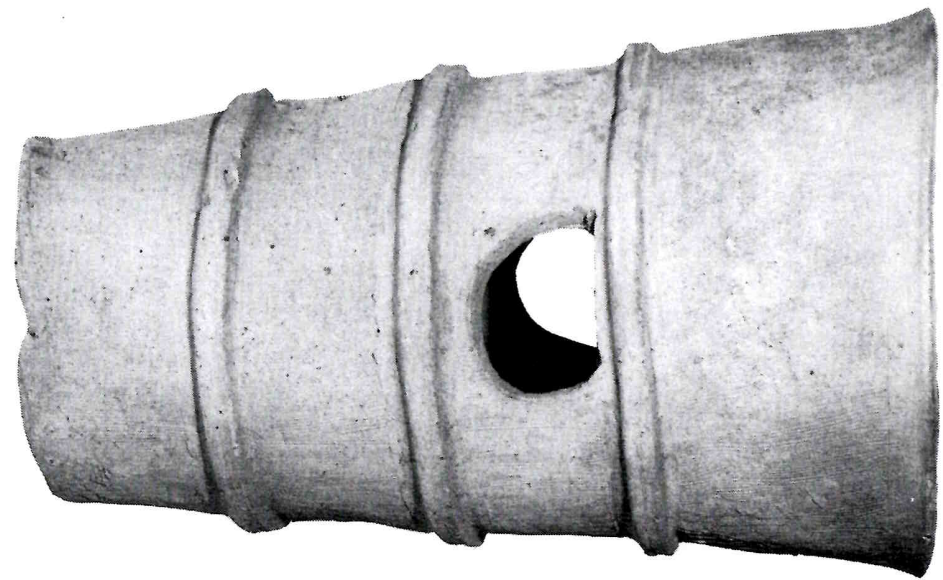
14aG
 写真図版 550 x 550mm 山古墳出土の埴輪・他

13aG
 埴輪 伊達京泰、保育社、昭和53年3月5日発行、21頁参照。
 12aG 木象の埴輪の埴輪がある。

右頁の右下(1/4)に
大きく載せて下さい。

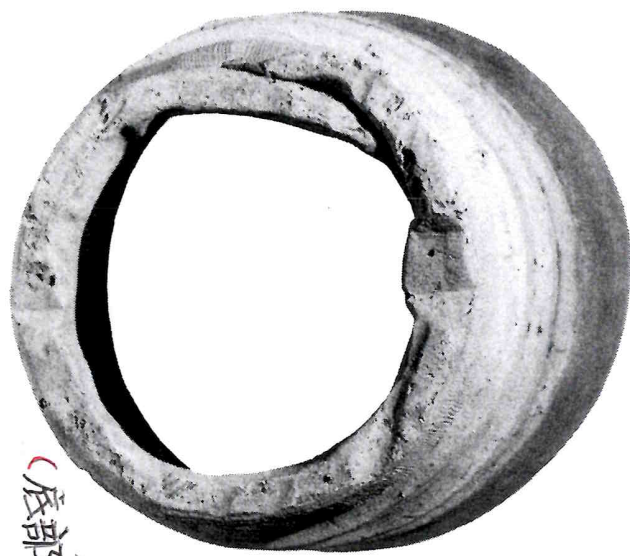


2,988^P-11/13



I 上げる

468



(底部)

120g

牛持ちの
薄い木

④2992^P
9-1089

中心のわが
130g

中心のわが
140g

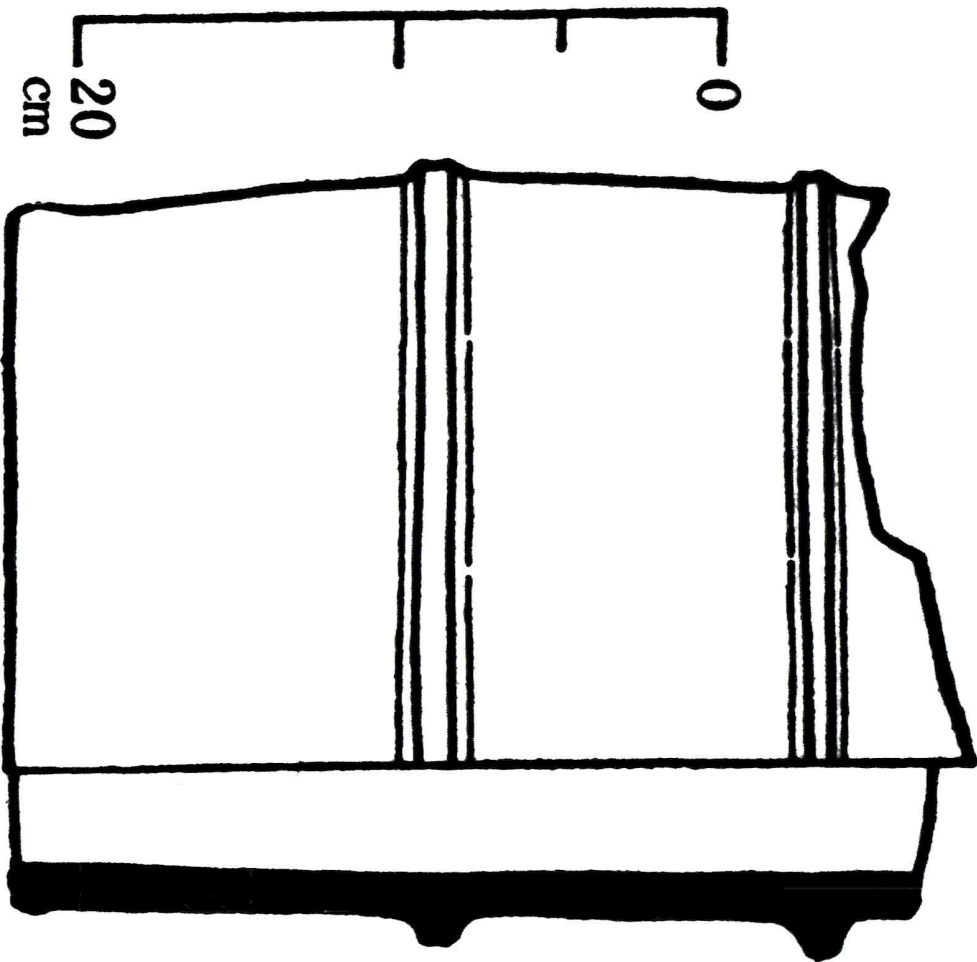
120g 不上³ (表¹) 半²
右¹ 群馬県前橋市、今井神社古墳

写真図版 551 円筒埴輪

『図説はにわの本』群馬県立歴史博物館、1996年6月1日発行、13頁参照

・右側の左下(1/4)に
載せて下さい。

2,988^P - 12/13



469

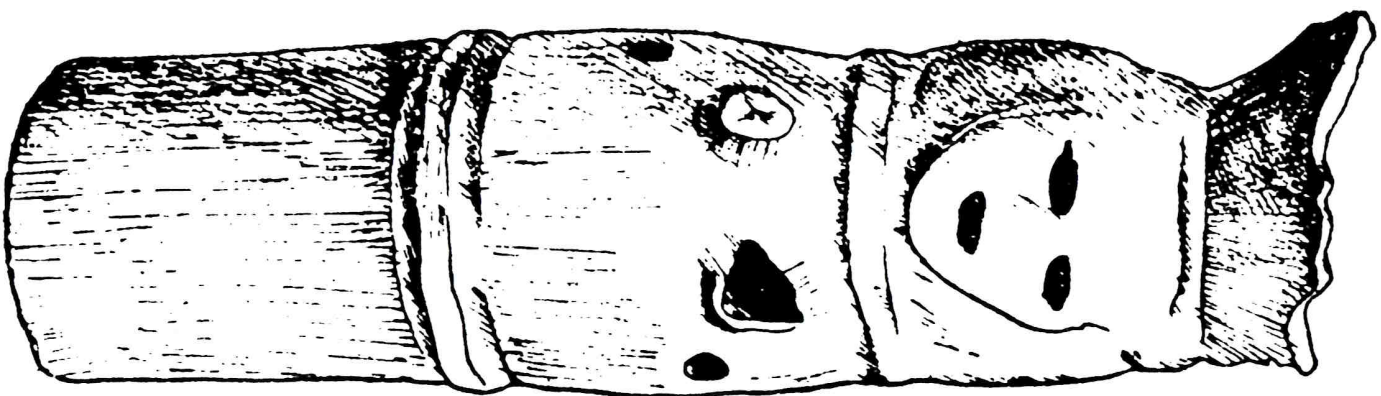
130g 中へ3リわけ
 140g 中へ3リわけ
 120g 伊達宗泰
 130g 底が無く、土管状であることが分かる
 120g 第402回 円筒植輸
 120g 岡山県岡山市沢田
 120g 金蔵山古墳
 120g 5世紀
 120g 報告書
 120g 昭和53年3月5日発行、27頁参照

2992^P 9~10頁

・左頁の右上(1/4頁)に、
上部を腰一杯はみ出させて
掲載下さい。

④3004²-1/2
福岡早良区
最良の人形11=7

2,988^p-13/13



中心は、いわけ

140G

中心は、いわけ

130G

第 403 図

円筒形の人形埴輪

大 びと びと

④2992^p
16~20冊
④3004²-1/2

福岡 早良

『埴輪』伊達宗泰、保育社、昭和53年3月5日発行、103頁参照、

大 びと びと

中3004¹/₂ 福岡の人物イニワ(最古) (20)

↓ 448.6 (中) 慰休 地輪
大和化装の工事の中

2981¹/₂ 2982¹/₂ 2983¹/₂ 2984¹/₂ 2985¹/₂ 2986¹/₂ 2987¹/₂ 2988¹/₂ 2989¹/₂ 2990¹/₂ 2991¹/₂ 2992¹/₂ 2993¹/₂ 2994¹/₂ 2995¹/₂ 2996¹/₂ 2997¹/₂ 2998¹/₂ 2999¹/₂ 3000¹/₂

(欠番 2,989¹/₂~2991¹/₂) 2992¹/₂

2997¹/₂ 2998¹/₂ 2999¹/₂ 3000¹/₂

地輪 カラーボックス 31¹/₂ 27¹/₂ 25¹/₂

2263¹/₂ 2988¹/₂

等参照
ト
道輪は人々のたしとていうことを表わしている

伊達宗泰「保育社」一四三頁、一〇三頁、一一六頁
過渡期を示すものと考えられている。
出土しており、円筒形埴輪が人物埴輪に
口・顔の輪郭を描いた円筒形の人物埴輪が
ところで、縦長の円筒埴輪上部側面に目。
ことが分かったという。
また、奈良県桜井市高田のメスリ山古墳の
場合、円筒形埴輪を樹てならべた状態を調査
したところ、深く掘って埋め立てていない
ことが分かったという。
第403頁 図1人形埴輪

底が無く、この点が大きな特徴となつてい
出現する。(写真図版 547・548・549・550 参照)
尚、壺形の土器と同様、円筒形埴輪にも
に見られるような上壺下円筒状の「壺形埴輪」
あるいはやはり壺との関連を思わせる上辺が
ラッパ状に開いた「朝顔形埴輪」などをは
めとする種々の形状をした円筒形埴輪が
出現する。(写真図版 547・548・549・550 参照)
第402頁 図参照
第403頁 図参照
第404頁 図参照
第405頁 図参照
第406頁 図参照
第407頁 図参照
第408頁 図参照
第409頁 図参照
第410頁 図参照
第411頁 図参照
第412頁 図参照
第413頁 図参照
第414頁 図参照
第415頁 図参照
第416頁 図参照
第417頁 図参照
第418頁 図参照
第419頁 図参照
第420頁 図参照
第421頁 図参照
第422頁 図参照
第423頁 図参照
第424頁 図参照
第425頁 図参照
第426頁 図参照
第427頁 図参照
第428頁 図参照
第429頁 図参照
第430頁 図参照
第431頁 図参照
第432頁 図参照
第433頁 図参照
第434頁 図参照
第435頁 図参照
第436頁 図参照
第437頁 図参照
第438頁 図参照
第439頁 図参照
第440頁 図参照
第441頁 図参照
第442頁 図参照
第443頁 図参照
第444頁 図参照
第445頁 図参照
第446頁 図参照
第447頁 図参照
第448頁 図参照
第449頁 図参照
第450頁 図参照
第451頁 図参照
第452頁 図参照
第453頁 図参照
第454頁 図参照
第455頁 図参照
第456頁 図参照
第457頁 図参照
第458頁 図参照
第459頁 図参照
第460頁 図参照
第461頁 図参照
第462頁 図参照
第463頁 図参照
第464頁 図参照
第465頁 図参照
第466頁 図参照
第467頁 図参照
第468頁 図参照
第469頁 図参照
第470頁 図参照
第471頁 図参照
第472頁 図参照
第473頁 図参照
第474頁 図参照
第475頁 図参照
第476頁 図参照
第477頁 図参照
第478頁 図参照
第479頁 図参照
第480頁 図参照
第481頁 図参照
第482頁 図参照
第483頁 図参照
第484頁 図参照
第485頁 図参照
第486頁 図参照
第487頁 図参照
第488頁 図参照
第489頁 図参照
第490頁 図参照
第491頁 図参照
第492頁 図参照
第493頁 図参照
第494頁 図参照
第495頁 図参照
第496頁 図参照
第497頁 図参照
第498頁 図参照
第499頁 図参照
第500頁 図参照

日本史年 825³

カラ-ブ 72/33^P
 ④ 30/0^P - 1/2 2^分
 (装文)

$$2,993^P - 1/2$$

④ 3004¹ 5世紀後半に人跡ハエツ
九州のハエツ 日本中経 825¹
④ 3003¹ カラーフックス

九叫のハニ

日本中緯 825°

④ 3003'

カーブミラー

第 111°, 119° 中至 36° 和 104°, 31°

次頁15行
つぎに述べ
たい。(*)

形象埴輪の出現時期について、
 う述べられてゐる。
 古墳時代前期には、家形埴輪があり、
 埴輪の器財埴輪、鳥形埴輪が加わった。
 また、五世紀前半には馬などの動物埴輪
 が登場し、五世紀中ごろには人物埴輪が
 現れた。
 という。→日本史辞典、東京創元社、
 埴輪参照。
 埴輪とも、近畿地方の人物埴輪出土例
 は意外に少なく、しかもその内容はほとんど
 女性をかたどっており、その出土位置も、墳
 丘内でなく、墳丘外のことが多い、といわ
 れてゐる。→埴輪、伊達宗泰、保育社、
 三三頁参照。の埴輪は、
 畿内地方、六世紀半ばから衰
 て消滅するが、関東地方では七世紀におい
 て引き続き作られてゐた。→日本史辞
 典、東京創元社、埴輪参照。

日本史行 825¹

② 2987¹ 1/2 まで

カラ-74/12
地輪31¹

2,993¹ - 7/2

日本史行 825¹ 「現在」 ② 2990¹

と通常解釈されていゝる。ある。「埴輪」

「垂仁紀に伝える殉死代用説は、成立」が

で最も古い段階に出現したものではない。

分を占めていゝる。

また量的にいゝても、円筒埴輪は埴輪の大部

輪とに大別して考えられていゝる。

「そーて近年、埴輪は、円筒埴輪と形象埴

伊藤宗泰、保育社、三一頁。「日本史辞典」
東京創元社、へ埴輪（参照）

*

2987 1/2 825

2988

2988 1/13 179

2991 1/2 582.2.11 (6) 2.994P

「はにの読本」196 1字TF
「埴輪」伊藤 31 102~3
「埴輪」ニニサイエス 18 20

本筋に戻ることはしない。
前記述の左のように、各種の円筒埴輪（底部に孔のある土器）の源流は、奈良県桜井市茶臼山古墳の墳丘上に置かれていた。底部に孔のある壺形土器に求められている。それでは、底に穴のあった壺形土器を祖

形とする多様な円筒埴輪は、一体、どのような意図するところかあつて、高塚式墳墓に樹て並べられたのだろうか。すでに多くの説があるとはいえ、今なお定

説となるものはないようである。

①土製の円筒を土留めに使ったという説、
②円筒埴輪側面の透し孔に棒を通し、垣とし

て組み立てたという説、
③円筒埴輪の透し孔は、運搬の際に担い棒を通し、爲に設けられたのであろうとする説

ーで運搬する

2988

主印
穴 5590

$$2,995^P - \frac{1}{2}$$

24
E-77 小3
投
元 844¹

慎重 注意深く

大ニ71997
表吳漢
ハ
ウ

大分 2464
飾 矢 漢
アキ シキ

コクヨ ケー-20 20×20

475

「壺輪」
カーブの2/14
31, 21左端



ちのく 元1440P
中空 からんどう 肉厚に於て
内薄と成る

2.995P-1/2

底穴 壺形土器
円筒壺輪
カーブの2/14
「壺輪」1/18に於て
31

どう云
胴 1558

1200云 959
思考 思考
模索 2188 2988
42577
採すこと

こゝに壺輪の祖形ではないか
というのであれば、壺輪の起源を考え
る場合、何は如何にしても、底部に孔のあ
る壺形土器に注目すべきであらう。
それ以降に作られたさまざまな形状の円筒
壺輪は、壺形土器が持つてゐる機能を増幅
せたり、変形せたりしてゐるだけにすぎ
ないと考えられるからである。
さて、壺形土器が円筒壺輪へ発展した
ものならば、両者の間には必ず何らかの共通
点がある筈だと思われよう。
その共通点は、何であらうか。
参考迄に記せば、両者は共に、
「底に開口する穴と、穴のまわりをぐるり
とまわることを取り囲んで立ち上がる薄の胴部と、
上端に開口する大きな口と、底の穴と上端の
口とをつなぐ中空部を有する土器である」
と、いふところにある。
また、なお、上端の口部から外方へ張り出す鏝は
有ったり無かったりするものである。
では、壺形の土器ばかりでなく、円筒壺輪
にも見られる底部の穴は、一体、何の爲
に設けられたのだであらうか。

2992 2996 1/3

2992 供献 2992 2992

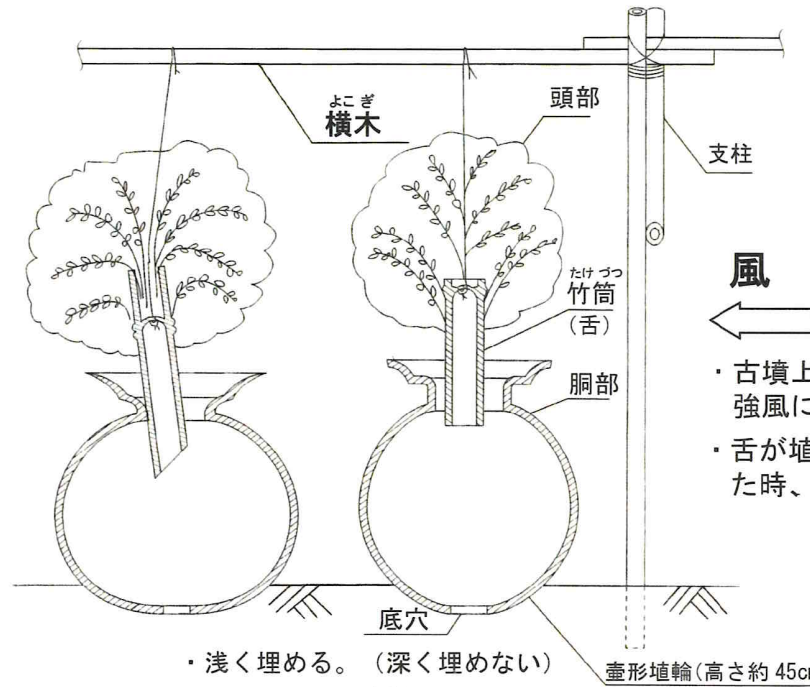
上端に開口する大きな口があつて、底にも
 穴のある壺形土器や、円筒埴輪の
 中に、水・酒・食物などを入れるわけ
 はあるまい。埴輪の始まりが供献のため
 の具であり、高杯が変形されたものである
 とも考えにくいように思われる。(埴輪
 伊達宗泰、保育社、二〇頁参照)
 ーかし、考えてみればあまりにも当然
 なから、
 「壺形土器や円筒埴輪には、
 底部に穴があるのだから」雨水や露などが溜
 ることはない
 と言えよう。
 壺形土器や円筒埴輪の中に、
 常に空の状態が保たれるわけで
 ある。
 以下、口空の状態で果せる役割
 について考えてみる。

二の丸
 二の丸

米

『新・お物言』第一巻170頁、第23図に追加、996⁹-3/3

右頁の上半分に
限度一杯はみ出させて
掲載下さい。



1429

第404回

4世紀ころ出現した壺形埴輪列の想像図（奈良県桜井市茶臼山古墳）

②998^{1/3}
海老丸めく

紀上272¹
紀小160¹

180589
状況
1089¹

2.997^{1/4}

深く掘って埋めていない。
②992¹ 二音¹ 132¹ 11ちどま

つわり元 共鳴元578¹
悪阻1508

新(1)-170¹

「コーン、コーン」
とかなり大きな音をたてた。
土器の空洞部や、竹筒の中で共鳴しているの
であらう。
風が吹きつけ、竹筒が、かすかに震えを帯
びた音が、強く、弱く鳴りつづけた。
聞きようによつては、「オニオン」とも、
「ウオン」ウオン」とも聞きとれる音である。
墳丘上に深く掘って埋めないうちだ。ただ
そんなに音が一斉に鳴り響いたら、一体、どん
なふうに聞えるのだろうか。
もしかいたら、そのような音を聞いた
往古の人々は、女人の姿を、塚が悪阻で苦
しい、いる様子、想像したのではなからうか
つまり、底部穿孔土器は、
「生けながら」して墳墓の域に埋め立てら
れ、日をへて死なずして、昼に夜に泣き呻い
ている者達の苦しい声、
を連想させる為、に作られたの、
かも知れない。

竹の舌 2996'-3/3

ほどく

恐らく一夫の神は、女人の姿をしているが、
 黄し、み悶えて、いるその声を聞いて、御子
 がみじもったことをお知りになるのである。
 なお、舌として、木の棒・金属片・土器・石
 などを吊り下げて、かすかながら音が出る。
 また、その他にも、いろんな手段によつて
 音を出さるゝと、可能であろう。
 か、か、悪阻の時期が過ぎたら、そうした
 仕掛など全てを取り除いてしまつたであらう
 から、
 その当時、どんな方法
 か採用されて、いたのかを知るのは困難である。
 あるいは、
 へ壺形埴輪や円筒形埴輪の近傍で、支柱の存在を
 示唆する。穴が検出されるかも知れない。
 現段階では
 何とも確認されておらず、推測の域を出るもの
 ではない。
 なお、一定期間経過後、音響発生装置が不
 要となつた時には、吊り下げている紐を
 切るなどして、日（竹筒など）を円筒埴

481

2,997P-3/4

H30(2018)5,5(±) ㊥

(第405回参照)

見出し出さる可能性もあろうと期待される

・土中に埋まっていた筒植輪内から

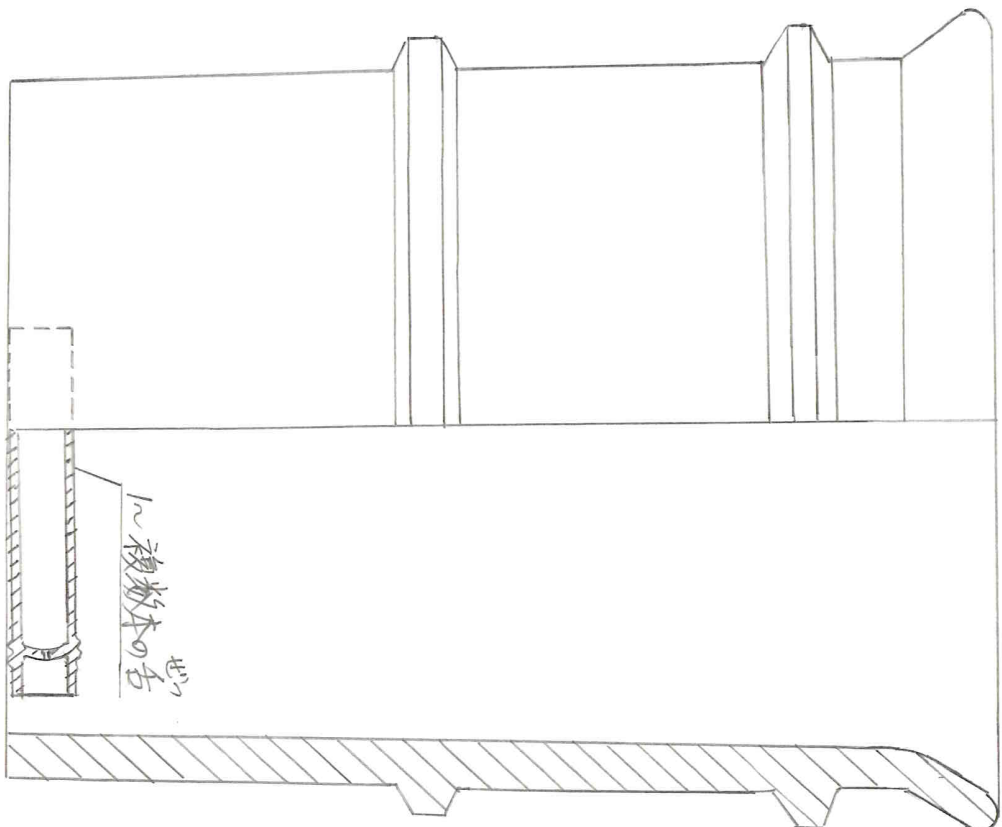
・横木おび支柱だけを高く塚から持ち上げて降

輪内へ落下させたのだろう、と思われる

(X)

・ 奥の上 (1/4 奥) に
大玉くはみ出しに掲載下さい。

2.997P- 4/4



483

1409

第405図

えんじうはにわな^{ない} ころ^か せう^{たけ} だ^{たけ}
円筒植輪内に落^り下^りた舌 (竹筒など) 想像図

寺澤薫氏へ送付した。H30(2018)5.8 ㊥
〒3430110 岐阜県岐阜市1281

㊥ 2996-3/3
㊥ 3430110

すか あな
透(孔) 2994° 17分

す
透(孔) 1102°

みかわり
新代(元) 2107°

196° - 1/3

196° - 1/2 (4分) 2987° 1/2 2,998° - 1/4
新代(元) - 1/2

紀上 272° 紀下 294°
紀上 218° 紀下 294°
泣き呻く 2997° - 1/2

ともあれ、壺形埴輪が墳丘上に樹て並べら

れるようになったから、

墓の域に埋め立てられ、泣きぬめきながら死

んでゆく

と、いた悲惨な光景は、次第次第に少なくな

ていったと思われ

そして、壺形埴輪は、多くの者達の生命

を救っただけでなく、悲痛な思いを抱き

続けてきた心ある人々の苦悩をも和らげたに

違いない

な

へ、死者たちの身代として墳丘上に樹て並

べられる壺形埴輪の悲しげな音を、より強

く響かせる為、時を追って工夫が加えられてゆき

へ、共鳴部である胴部は大きくなり、

側面からも音が漏れ出るように、丸や三角

等の透孔が設けられ、こゝろでさまざまな

形状をした円筒埴輪が次から次へ出現した

と想像される(「芒筋」第三編「埴輪」において既述)

(*)

新・昭和
9分
1950
- 1/6
196° - 1/3

まつおかやま 新ヤ11-172 65 かい え
松岳山 朝日S60.11.13 過程 434
「埴輪」伊達 116に貼布

2,998^P-2/4

ALL! 196^P-2/3

1800h
上腕 云1114^P
196^P

(ニ)

「ヒコ」で 298^P-1/2
2992^P

埴輪
を
見
て
み
よう
見
て
み
る
こ
と
に
い
よう
な
。

■ ところ、竹筒の上端に縛りつける葉付きの枝の束を人の頭部にに見立てると、壺形埴輪や円筒埴輪は人の胴部に相当する二とになる。

① 円筒埴輪の対向、西側面部分、上腕状のヒレをとり付けたものが案出され、

② さらに、もつと人の胴体に似せる為なのだ、ろう、水断面の形状が楕円形である、楕円形円筒埴輪の長径の両面に、古墳

の造り出し部のよう、ヒレをとり付け、たものなども作られるようになった、と推察される。

■ ヒレ付き円筒埴輪の出土例は全国で二、三に四十例、楕円形埴輪は九例、ヒレ付き楕円形埴輪は三例あつて、

(1) 奈良市の不退寺裏山古墳の一基、

(2) 大阪府柏原市松岳山古墳の二基、

が知られてゐる。

■ ここに、松岳山古墳出土のヒレ付き楕円形埴輪

・新・文藝物語
第一巻171頁の

写真図版9と同様、

左頁の左下に

限度一杯はみ
出させて掲載

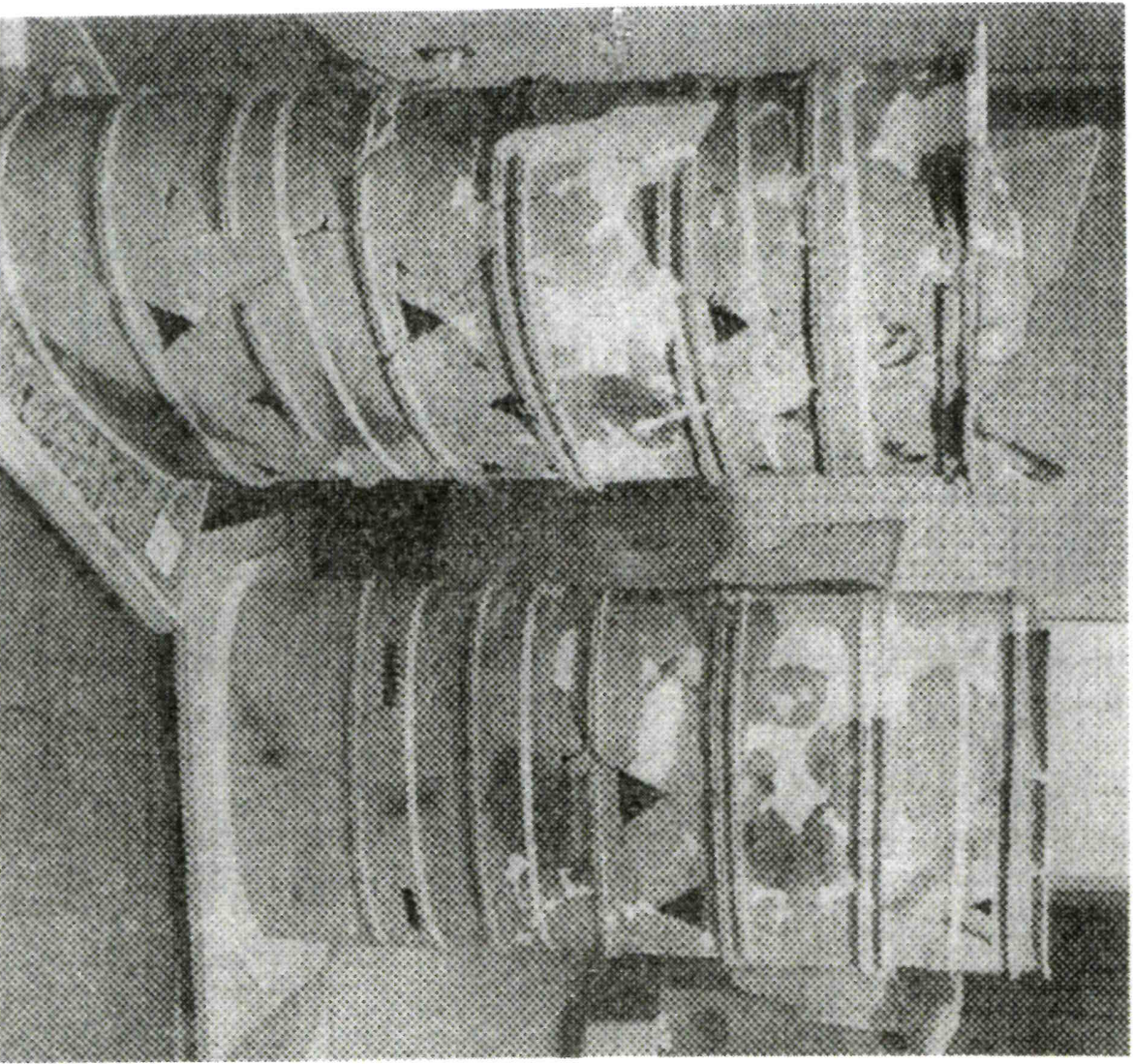
下さい。

・暗くならぬように

して下さい。

・明るくお願い
します。

2,998^P-3/4



486

「新・文藝物語」
第一巻171頁の
写真図版9と同様、

大阪府柏原市松岳山古墳出土
のヒレ付き楕円形埴輪

1209 (上から1/3あたりに、ヒレが取り付けられている)

1309 『朝日新聞』昭和60年11月13日付〈これは珍し

い、ヒレつき楕円形〉参照。

・側面からも音が漏れ出るように、丸・三角等の
透し孔が設けられるようになったのだらう。

2998^P-1/4 171頁へ貼布した。

H30(2018)8.3(金)~8.4(4回)
令和元(2019)8.3(土)~8.4(3回)
地輪 116"に貼布
伊達宗泰
伊達宗泰

重形ハニワ到 195-5/6
「地輪」伊達 116"に貼布

2.998" - 4/4

F8/4
8/4

復元された地輪は二基とも長径七十
短径四十、高さ百四十四。ともに三角
の透し穴があり、中段よりやや上方、長径の
のような形をいた縦長のヒレ（長さ二十
五、幅十、厚さ約一）がついている。
うち一基には、巴状の透し穴が設けられ、また
上端部に角のような装飾がほどこされてい
いすれも、古墳の前方部から出土した。中
に、砂利などを入れて、固定してあった。
松岳山古墳は、四世紀末から五世紀初めの
古墳と考えられており、後円部頂上に大きな
長持ち形石棺があって、こままでに碧玉製腕飾
類や鉄製品多数が出土した。鉄剣や鉄槍など、二
十二時も見い出された。
という。（朝日新聞）昭和六十年十一月十
三日付、へこみは珍しいヒレつき楕円形
「地輪」伊達宗泰、保育社、一一六、一二〇
頁参照）

*

両外側面に耳